



知行合一



学校教育目標

潤いと輝きにあふれる学校

芦北町立田浦中学校
学校だより 第28号
令和2年3月14日
文責 校長 畑口益喜

葦北の 野坂の浦ゆ 船出して 水島に行かむ 波立つなゆめ
長田王 (万葉集 巻3・246)

※今年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業生・保護者・職員・町教委のみで実施しました。臨席いただく予定でしたご来賓の皆様にはご理解とご協力をいただきありがとうございました。

おめでとう 第73回卒業式

令和最初の卒業生22名が本校を飛び立ちました。

5月の体育大会、予定された日は未明から大雨が降りました。私と米先生が2人で水を抜くための水路を掘っていたところ、ある3年生が、「あれは私たちがしないといけないことじゃないのか。」と友達につぶやいたそうです。昼休みになり、別の3年生が学級で声を掛け、全員がグラウンドに出て



スポンジでの水抜き作業。最後の体育大会を成功させたいという強い思いを感じました。翌日は、『田浦中PRIDE ～超えろ！己の限界を～』のスローガン通りの体育大会ができました。令和最初の総合優勝は青团。閉会式の赤団団長の悔し涙が呼び水になったようです。土砂降りの中の後片付けも良い思い出です。生徒数は昨年の3年生の半分ですが、この時、頑張りの総和は上回るに違いないという確信をもちました。

6月の郡市中体連総体では、卓球男女、バドミントンそして、剣道、空手の4競技が県大会に出場を決めました。大会は優賞チーム以外すべて敗者です。しかし、勝者だけに価値があるわけではありません。全会場を回られた中体連会長から、県大会に出場することのできなかつた女子バレーボール部の必死なプレーと試合終了後の爽やかな態度が全競技で一番だったと声を掛けていただきました。皆さんを誇らしく思いました。ゴールを守るたった一人の3年生のサッカー部員の姿も心に残りました。

9月の郡市陸上競技大会では、選手の頑張りはもちろん、支える側に回って頑張った人がいました、応援パネルをつくり、声をからした人たちがいました。県大会でケガのためベストの跳躍ができなかつた友達は悔し涙を流しました。支えてくれた保護者や仲間、指導にあたった先生たちとの絆の涙でした。

さらに、今年度は田浦中としては初めて、男女両チームが県駅伝競走大会に出場することができました。これは郡陸上で連続優勝をしていた頃でさえもできなかつた快挙でした。田浦中は葦北水俣で2番目に小さい学校です。小さくとも個々の才能で勝負できる競技はあるでしょう。しかし、学校同士が競い合う駅伝での成果は並大抵の努力では残せません。走ることが好きな者だけが集まった競技ではありません。自分の時間を犠牲にして、田浦中の「温故創新」を体現してくれた駅伝チームの皆さんに心から感謝しています。

3年前の皆さんと、卒業した後も走り続けている先輩方から新しい田浦中の歴史が始まりました。後輩たちが伝統の襷を繋いでくれることを願っています。

11月の文化祭では、表現力豊かな劇はもちろん、合唱コンクールで演奏の前から涙を流す指揮者の姿がありました。指揮者、伴奏者、合唱団。どの学級よりも練習をしました。結果発表の瞬間

の歓声。3年間の積み重ねであることを皆が知っています。よくそこまでたどり着きました。

特筆すべきは生徒会活動です。会長を中心とした執行部は「イイコト流星群」、「プロフィールブック」、「カンボジアに学校を贈る運動」などの公約を確実にやり遂げ、その実行力には目を見張りました。間違いなく過去最高の執行部でした。現執行部は皆さんが目標です。執行部と、全生徒からなる生徒会の皆さんのこれまでの活躍に対し、改めて称賛の拍手を送ります。

校長室の前を通るとき必ず立ち止まって、中にいる私に礼儀正しいあいさつをしてくれる2名の男子がいました。早起きは苦手だけど、優しさは男子で一番だという生徒がいました。田中前校長への誕生日メッセージや担任のサプライズ誕生会、心遣いもでき、良さを語っても語り尽くせないのが卒業生の皆さんでした。

さて、芦北町の学校では論語教育に取り組んでいます。田浦中の『学校だより』のタイトルは「知行合一」ですが、これは論語のこのような話から採ったものです。

弁が立つ弟子の子貢が、孔子に「君子とはどんな人ですか？」と尋ねたときに、「普段からあなたが話していることを先に実行しなさい、その後から言葉が出てくるような人が君子です。（まずすることをして、言いたいことがあればその後で言いなさい。）」と答えたそうです。

知って行わないのは、未だ知らないことと同じである。知識は行動と一致してこそ意味がある、本当の知識は実践をともなわなければならない。なかなか困難なことです。卒業生の皆さんに一生の課題として「知行合一」の言葉を贈ります。

最後になりましたが、保護者の皆様方に心よりお慶びを申し上げます。職員一同、巣立ち行くお子様の無限の可能性に期待し、これからもその成長を見守りたいと思います。行き違いもあったかと思いますが、目指すゴールは学校も保護者も同じであることをご理解いただき、この3年間本校教育に対するご協力を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん。いよいよお別れです。皆さんはこれから風のように大空に高く、高く舞い上がっていきます。日本にとどまらず、世界で活躍する人も出るかもしれません。しかし、太く、強い風系は田浦に繋いでおいてください。田浦中はいつまでも皆さんの心の拠り所です。

ところで式場の入り口の「卒業式」の立て看板を思い浮かべることはできるでしょうか。そこには赤い模様が描かれています。これは、昭和53年度卒業生の竹林公一さんが後輩への思いを込めて「未来へ続く道」を表し、デザインされたものです。皆さんの成長を見えるところ見えないところでたくさんの方が支えていました。今日からは皆さんが後輩を見守る番です。

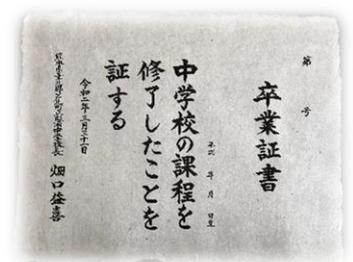


最後の登校日

2/28（金）、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校により3年生は今日が最後の登校日でした。文集の作成、証書授与や式での動き、唱歌の練習で最終日を終え、小雨降る生徒玄関から校門跡までの道を1・2年生と職員に見送られ学校を後にしました。突然の最終日に、両手は学習用具でいっぱいでした。

大河内紙の卒業証書

本町の卒業証書は、町の北部に位置する銅山（かなやま）地区伝統の手漉き和紙『大河内紙』でつくられています。江戸時代から昭和35年頃まで盛んにつくられていたそうですが、一時途絶え、子どもの頃に紙すきの技術を学んだ大河内紙保存会の皆さんが復活させました。これは、故郷と皆さんのつながりを表すものでもあります。



別れの言葉

卒業生総代 K.M.さん（生徒会前会長）



桜のつぼみも、日に日に膨らみ始め、新たな春の訪れを感じる季節となりました。

思い起こせば3年前の春、真新しい制服に身を包み、期待と不安を抱え、本校の門を通りました。重い鞆を背負っての自力登校、毎日のきつい部活動、帰宅してからの学習。小学校との違いに戸惑いながら必死に過ごす毎日でした。そんな中、何もかもが初めての私たちを先輩方は優しく引っ張ってくださいました。思い返せばとても大きな存在でした。

2年生。初めて「先輩」と呼ばれる立場に立ち、部活動や生徒会活動を通して、少しずつリーダーという自覚が芽生えていきました。自分の夢や将来の姿を考え、みんなの前で発表した立志式。自分で決め、筆で書いた言葉を胸に刻み、大人への階段を一步上ったような気がしました。

そして、3年生。5月には、「令和」という新時代が始まりました。すべての行事が「中学校生活最後」とであると同時に「令和最初」と呼ばれるようになりました。5月に行われた体育大会。5月の大型連休の影響で練習期間が短く、その焦りから後輩にきつく当たってしまう事もありました。そんな中迎えた当日は天候不良。体育大会は延期となりました。グラウンドには水たまりができ、体育大会ができるかどうか分からない状況でした。そこで私たちは、先生方にしていたいただいたグラウンド整備をすることにしました。泥だらけになりましたが、体育大会を成功させたいという思いが一層強くなりました。その思いが天に届き迎えた翌日が本番。一人ひとりの全力が各団の力に、そして田浦中の力になることを実感しました。最高学年としての責任の大きさ、全体をまとめ、引っ張ることの大変さを改めて学んだ体育大会でした。

11月に行われた文化祭。全員でつかんだ合唱コンクールの金賞。しかし、練習を始めたとき、開始時刻に揃うのはたった数人で金賞への思いに差がありました。でも、パートリーダーがみんなに声をかけ、少しずつ全員が金賞を取るという目標に向かっていきました。当日は歌っている自分たちでも自然と涙があふれる合唱になりました。全員が役割を全うした劇。「こうしたい」「こうした方がいい」それぞれの思いがぶつかり、中々一つにまとまりませんでした。でも、全員で話し合い、アドバイスをし合いました。直前まで変更を重ね、セリフを確認し、迎えた本番。私たちにとって忘れられない1時間はあっという間に過ぎていきました。

この他にも、まだまだきりのないほどにたくさんの思い出があります。しかし、このような楽しく充実した日々を送ることができたのも、今日卒業という日を迎えることができたのも、多くの方の支えがあったからだ改めて思います。

在校生の皆さん。今日、この時間を皆さんと共有したかった。そんな気持ちでいっぱいです。私たちの話を真剣に聞いてくれる皆さんがいたから、すべての活動が充実したものになりました。これから様々な困難が皆さんを待っていることでしょう。しかし、それを仲間と共に乗り越えてよりよい田浦中を創って行ってください。皆さんに田浦中学校の伝統という襷を渡します。

いつも笑顔で見守ってくださった地域の皆様。登下校や行事での優しい笑顔が私たちの支えでした。

私たち一人一人と向き合ってくださいました先生方。先生方から学んだのは、授業のことだけではありません。時には厳しく、時には優しく、そして熱意を持って指導してくださった先生方のお言葉、一つ一つを胸に刻み、歩んでいきます。

そして、一番近くで私たちを支えてくれた家族のみなさん。数えきれないほど迷惑をかけました。でも、どんなときも優しい瞳で私たちを見守り、数えきれないほど愛情ある言葉をかけてくれました。その言葉がどれほど支えになったことか。感謝してもしきれません。15年間大切に育ててくれて本当にありがとうございます。これから大きな壁にぶつかることもあると思います。そんな時はそっと背中を押してくれれば幸いです。そして、大きな世界へ羽ばたいていく私たちを見守っててください。

最後に、3年生の皆さん。中学校での3年間、たくさんのことがあったね。みんなで学び、教え合った授業。汗と涙であふれたたくさんの行事。ささいなことでもけんかして、くだらないことで笑い合った日々。辛い事も苦しい事も乗り越えることができたのは、こんなにも大切な宝物と出会えたからです。

出会いから9年。そばにいたことが当たり前でした。別れの日が近づくたびに、みんなと一緒にいたい。そんな思いが強くなっていきます。そんな中で、突然の休校。みんなと過ごせることが当たり前ではないことを痛いほど実感しました。今日を境に別々の道へ歩いていきますが、みんなのことは決して忘れません。みんなに出会えてよかった。かけがえのない時間を22人で過ごせてよかった。本当にありがとうございます。

名残は尽きませんが、いよいよ別れの時です。支えてくれたたくさんの人、そして田浦中学校への感謝の気持ちを忘れず、夢と希望を胸に、輝く未来を創っていくこととお約束します。

田浦中学校のますますの発展を祈り、別れの言葉といたします。

高校卒業おめでとう

3月1日は高校の卒業式でした。卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

【高校卒業おめでとう】020301

中学校卒業から3年しかたっていませんが、現在も田浦中に残っている職員は私と国語の本田先生、前樫先生、大岩先生の4名になりました。近隣の学校に異動された先生もいますので、卒業と進路の報告で顔を見せてくれると喜ばれると思います。

皆さんが中学3年生だった平成28年度の学校の出来事をまとめました。HPの「学校生活(随時更新)」→「学校生活(平成28年度)」もあわせてご覧ください。(H)

4月：14日、平成28年熊本地震発生、震度7、M6.5 校舎中央・武道場等にヒビ

15日、小中合同遠足を合同避難訓練に変更して実施

16日、本震発生 M7.3 17日のPTA総会延期

避難所生活や車中泊を余儀なくされた生徒もいました。

5月：「勝利 私たちは負けない 私たちはあきらめない」のスローガンのもと体育大会大成功、元気をもらったとの声が地域から届く。

6月：郡市中体連大会で卓球男女・バドミントン(10連覇)・剣道男女団体が優勝

7月：太田海水浴場の「くまもとみんなの川と海づくりデー」ボランティアに39名参加。

(本当は県中体連大会に出場したかった。)

8月：ポケモントレーナー大発生、赤松館付近を徘徊。集会で注意喚起を行う。

9月：台風12号の影響で、3年生共通テスト県下一斉延期決定。

10月：震災の影響により県中体連陸上大会中止。

11月：創立70周年記念文化祭、芦北鉄砲隊による記念演武がグラウンドに響く

阿蘇神社例大祭と福祉祭りで3年生男子が「祝いめでた」を披露

12月：上野清輝さん(ヴァイオリン)、中川大さん(ピアノ)による演奏に感動

1月：合格祈願餅つき インフルエンザ大流行、給食大盛り状態 1年2組学級閉鎖

2月：技術の授業で自転車整備の学習(と乗り方の練習)1日で乗れるようになった!

3月：3年生担当者は1先生以外の4名異動。Y先生とT先生、重大発表!